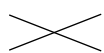


令和7年度中学生海外派遣事業

オレゴン訪問記



ボンネビルの水辺で

場所：アメリカ・オレゴン州

とき：8/1(金)～8/8(金)

朝来市連合国際交流協会

朝来市教育委員会

目次

1 団長手記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |

2 派遣者名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3 スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

5 派遣者レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ||



国と時間を越えた心のつながりを実感した8日間

朝来市教育長 小倉畑 祐 貴

1 はじめに

私がアメリカ・オレゴン州のことを意識したのは、私が20代半ばに、山東町の教員になったところで、1996年ごろには、当時山東町を訪れたオレゴン州の中学生との交流のお手伝いをしたこともあり、オレゴン州のことについていろいろなお話を聞くことはありましたが、今回初めて現地を訪れる機会に恵まれました。

期間中、事故やけがもなく、すべての行程を全員で過ごせたことが団長として最もうれしかったことで、参加者が朝来市を出発してからすべての行程において、節度をもって活動ができていた証拠です。それぞれが朝来市の代表として、準備期間も含めて自覚を持ち、行動や生活ができたということであり、各ご家庭のご支援も含めて、厚くお礼を申し上げます。



ダンディー市のワイナリー

2 学校間交流、姉妹都市交流

シャヘイラムバレー中学校と和田山中学校との交流が1990年に始まり、さらに、2000年にニューバーグ市と朝来市(旧和田山町)の姉妹都市提携が結ばれ現在に至っていることは、これまで度々聞き及んでいましたし、その交流の機会に同席させていただいたこともありました。

しかし今回は、実際にシャヘイラムバレー中学校やニューバーグ市役所を訪問することを通して、これまで引き継いできた交流と友好の伝統を、来年度以降にも確実につなげるとともに、互いの国や地域の未来を担う人づくりにつなげていきたいと思い参加しました。

ホームステイの受け入れをしてくださったホストファミリーには、夜の到着にも関わらずとても温かく迎え入れてもらっていて、10人の参加者は、長旅の疲れや若干の不安も一掃されたようでした。

期間中を通して、Andy校長、Donna先生、Sarah先生による案内や配慮をいただいたことはもちろんですが、市長や教育長他関係者にもお時間をいただいて、朝来市長親書の伝達やお土産品の交換などにもご出席をいただきました。中学校にも市役所にも、朝来市との交流を紹介する空間があることも含め、この交流を大切に取り扱いこなれていることが実感でき、両市のこれまでの取組が継続されている歴史の重みと、そこに参加させていただけたことへの感謝で胸がいっぱいになりました。

3 異国の地で「ようこそ後輩」日本人社長の工場見学

今回初めて、オレゴン州を拠点にアメリカに進出されている日本企業の食品工場を訪れ、社長から企業戦略や企業理念の一端をご紹介いただきました。おもてなしの心で優れた商品を提供することはもちろん、様々な国籍の従業員がいる職場であるが故の配慮や工夫、アメリカという大きなマーケットに挑戦する意気込みや戦略など、経営者ご自身の言葉でお話を聞くことができた経験は、生徒個々の将来設計においても貴重な場となり、将来に向けての財産になるものと思いました。



工場見学にて

4 この交流で最も大事なこと

現地8月6日の「さよならパーティー」では、この交流を長年支えてくださっている Donna 先生から次のようなお話がありました。

- ・80年前、広島に原子爆弾が落とされた歴史がある。
- ・時間が経ってこのように友人として仲良くてきていることは素晴らしい。
- ・シャヘイラムバレー中学校に約30年前から「友好之庭」がある。
- ・当時島田喜良氏のデザインで、平和を願い作られたこの庭は、数年前に栗栖宝一氏らにより再設計された。
- ・被爆した柿の種から育てた木が植えられ、平和への思いを新たにした。

現在でも戦争や紛争がある中、この交流が実施できたことはたいへんありがたく、尊いことであることはわかっていたつもりですが、この交流の真のねらいであり真の願いが「世界平和」であることを、改めて確認・共有することができました。



友好之庭

5 初めて経験したホームステイ

ホストファミリーとして、私の家に外国の方に滞在してもらった経験はありますが、自分が外国の家庭に滞在した経験はありませんでした。今回初めてホームステイを経験するという事で、団長として参加すること以上に不安であったと言えるほどでしたが、とても素敵な家族との出会いがあり、楽しい思い出と貴重な経験ができました。

(1) オレゴンの日常の暮らし

私がホームステイをするにあたり、事前にホストファミリーにリクエストしたことは、通常の暮らしの体験です。アメリカに行く直前、受け入れいただく家庭でインフルエンザ(?)になった方があるとのことで、急遽、そのご両親の家でお世話になることになりましたが、とても優しくしていただきました。また、当初ホームステイするはずであった家族との会食や、そのお宅でのお別れ会もしていただき、私自身興味のあったアメリカの家庭生活や住宅を複数見せていただくことができました。日々の American breakfast や、寛ぎの時間帯には、敷地にある倉庫や畑や果樹、飼っている鶏や自作の鹿よけネットの話を私にわかるように紹介していただき、日曜日には教会の礼拝にも連れて行ってくださいました。20時半頃に日没を迎える地域だからか、夕食後にブラックベリー摘みをしたり、家族でバトミントンに興じたりと「日常」の違いも興味深く楽しかったです。



日曜礼拝に訪れた教会

(2) 出会いに感謝

ホストファミリーは私より少し人生の先輩であるご夫婦でしたが、言葉も文化も違う私を尊重し、温かく迎えてくださいました。特に、様々なやり取りの中で、このご夫婦が奉仕の心、感謝の心を常に心掛けた暮らしをされているように感じました。このことを含めたご夫婦の「人間力」に触れられた今回の経験は、私自身にとって、とてもありがたいものとなり、このような機会が得られたことにも心から感謝いたします。



ブラックベリー摘み

6 おわりに

中学生が海外に出かけることは、とても貴重な体験であり、多くの学びとともに、乗り越えた自信や今後の生活への活用を含め、様々な収穫があったと思います。併せて、2つの町の友好の伝統や信頼関係をも目の当たりにすることは、子どもたちはもちろんのこと、大人にとっても、得られるものがたいへん多いと感じました。市役所職員や学校教職員が参加することで、この交流による、まちづくり、人づくりへの可能性が広がり、この事業の可能性を再確認することができました。



サンフランシスコ国際空港

令和7年度アメリカ派遣者名簿

生徒

名前	学校	学年
かとう こころ 加藤 心	和田山中学校	3年
みうら かのん 三浦 佳暖	和田山中学校	2年
あだち ひなた 安達 日詩	梁瀬中学校	2年
ふじい さき 藤井 咲希	梁瀬中学校	2年
かとう たいが 加藤 太海	梁瀬中学校	2年
ふじわら ゆか 藤原 結香	梁瀬中学校	2年
よしもと はる 吉本 陽	梁瀬中学校	2年
つつい おじか 筒井 紫千花	梁瀬中学校	2年
いとう みなみ 伊藤 みなみ	朝来中学校	3年
いまむら あやは 今村 彩葉	近畿大学附属豊岡中学校	3年

引率者

名前	職名
小倉畑 祐貴	団長（朝来市教育長）
ブレンナン ブライアン	通訳（和田山中学校 ALT）
高瀬 一弥	庶務（学校教育課 主事）

Oregon Schedule 2025

8/1



Departure

8/2 Family Day



8/3

8/5



**Bonneville
Multnomah Falls**



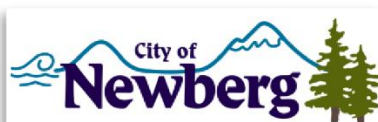
...

8/4



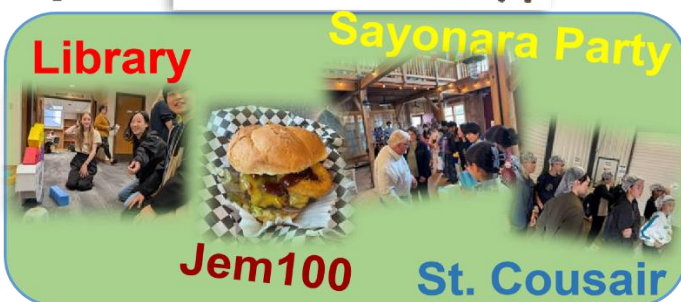
Sea Side

8/6



Library

Sayonara Party



Jem100

St. Cousair

8/7~8



Return to Asago

◎1日目 ～始まりの日～

令和7年度中学生アメリカ派遣団は、市役所まちづくり広場で出発式を行い、多くの方からの見送りを受け、アメリカへの旅をスタートしました。今年は、市制20周年を記念し、朝来市から派遣人数を昨年より5名増員していただき、市内の中学生10名が代表してニューバーグ市へと向かいました。初めての姉妹都市交流への楽しみと不安が入り混じる中、バス移動と空港での搭乗手続きを済ませ、約10時間のロングフライトへと臨むことになります。長旅を前にリラックスした生徒もいれば、初めての飛行機にドキドキしている生徒もあり、一人一人がそれぞれの感情を抱きながら、遥か海の先で待つ、アメリカを目指しました。



関空出発前ロビー

サンフランシスコ国際空港に到着後は、入国審査を受けます。一人ずつ、入国審査官に呼ばれて、アメリカにきた目的や滞在期間などの質問に答えます。問われる内容はそれぞれ異なり、これが生徒たちにとって最初の英語でのコミュニケーションとなりました。

国内線に乗り継ぎ、最寄りのポートランド国際空港に到着すると、シャヘイラムバレー中学校の先生がスクールバスで迎えに来ており、5月の日本での交流以来の再会を果たしました。1時間ほどバスに揺られ、日が沈み始めた午後8時頃にシャヘイラムバレー中学校に到着し、ホストファミリーの大歓迎を受けました。これまでの旅の疲れを包み込んでくれるような優しさを感じ、ほっとした気持ちでそれぞれの帰路につきました。



ホストファミリーの出迎え

◎2・3日目 ～ホストファミリーとの休日～

アメリカで迎える初めての朝は、ゆっくりと始まった生徒が多かったようです。家族と朝食を食べ、犬の散歩をしたり、ゲームをしたり、市街地や公園、大自然に出かけたりしました。どこにいても、いつも見る景色とは違うものばかりで、あらためて海外の地に足を踏み入れ、アメリカにきているということを実感しました。食事の時にはいつも驚かされ、レストランでの昼食やホームパーティーで出される食べ物はどれもボリュームがあり、見るだけでお腹がいっぱいになりました。ハンバーガーやステーキなど、アメリカといえば頭に思い浮かべる食べ物のほか、焼いたサーモンはまさに絶品で、ホストファミリーのおもてなしと共に私たちのお腹を満たしてくれました。



マウントフッド

ここで、引率者の休日の一部を紹介したいと思います。土曜日（2日目）に、ニューバーグ市の近郊にあるヒルスブローという町で開かれている祭りに行きました。市民センターの前の通りに出店が並んでおり、地域の人たちがハンドメイドの商品や植物のお店を出していました。アメリカでは、この時期に各地で祭りが開かれており、カウンティフェアと呼ばれています。祭りの内容は地域ごとに様々で、移動式遊園地がやってきたりする場合もあるようです。私が参加したヒルスブローの祭りは、規模は小さいですが多くの人が行き交っており、盛り上がりを見せていました。市民センター前の広場では、文化的なパフォーマンスを披露するステージが設けられており、そこでは「Takohachi」というポータランドで活動するチームが和太鼓や三味線を演奏していました。パフォーマンスが始まると多くの人で囲まれ、終始拍手や歓声が響き渡っていました。偶然訪れた場所で、日本文化が受け入れられていることに喜びを感じたとともに、誇らしい気持ちになりました。



ヒルスブローの出店



「Takohachi」

◎ 4 日目 ～海の街・シーサイド～

参加した両国の生徒たちが一つになって活動するのは、今日が初めてのことでした。スクールバスに乗り、2時間ほどかけて太平洋を目指します。ニューバーグ市を離れ山林に入り、携帯も圏外になる道をひた走り、突然市街地に入ったかと思うと、そこは海の街、シーサイドでした。少し雲が多い天候でしたが、まずお店の立ち並ぶ通りでショッピングや昼食を楽しみました。午後からは晴れ間が見えたため、砂浜に行き海に入りました。水は少し冷たく、波も膝丈まで押し寄せていましたが、偶然居合わせたシャヘイラムバレー中学校の他の生徒も加え、日本へと続く海と空を背に、記念の一枚を撮りました。

海からあがるとビーチバレー大会の開催です。ルールは無くひたすらボールをラリーし続けるのですが、互いに名前を呼び合い、声を出し合いながら、相手コートへボールを運びました。朝のスクールバスの車内では、まだ恥ずかしさがあり、生徒たちの間に若干の氷が残っている状態でしたが、この時間がかなり良いアイスブレイクになりました。



太平洋をバックに



ビーチバレーの後は…

◎ 5 日目 ～大自然の迫力～

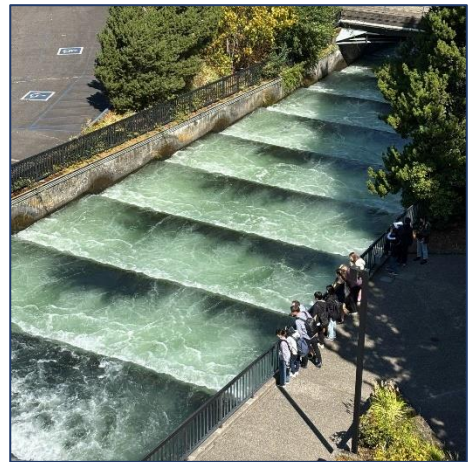
今日は進路を北に変更し、コロンビア川峡谷へ向かいます。コロンビア川は、オレゴン州とワシントン州を隔てる川で、カナダのブリティッシュコロンビア州に始まり、アメリカ・ワシントン州に入ると進路を西へと変え、カスケード山脈を横断します。この峡谷を活用し、複数のダムが存在しており、私たちが見学した「Bonneville Dam(ボンネビル・ダム)」もその一つです。雄大な山々と清らかな水が織りなす自然はとても美しく、窓を開けて走るバスの車内には、気持ちの良い風が流れ込んできました。この景色を遮るように建設された巨大なダムからは、膨大な量の水があふれだし、大自然の生むエネルギーの大きさを肌で感じました。

ダムに併設された施設では、上流へ登れなくなってしまった魚たちのための水路が管理され、職員が常駐して通り過ぎる魚をカウントするなど、他の生物への影響を最小限にする取組がなされていました。また、すぐ近くには「Bonneville Fish Hatchery (ボンネビル・養魚場)」もあり、そこには「スタージャン」と名付けられた、とても大きなチョウザメを見ることができました。

「Bridge Side」というレストランで、コロンビア川を眺めながら昼食をとり、午後からは「Multnomah Falls (マルトノマ滝)」を訪れました。滝は約 190m の高さがあり、途中の岩や滝つぼの水面に激しく打ち付け、水しぶきが舞っていました。元気のよい一部の生徒と引率者は、この滝の頂上を目指しハイキングをしました。1 時間ほどかけて登り切った先では、大自然の絶景が待ち受けており、流した汗もすがすがしく感じられたと同時に、いつも何気なく見ている朝来市の自然が懐かしく感じられました。



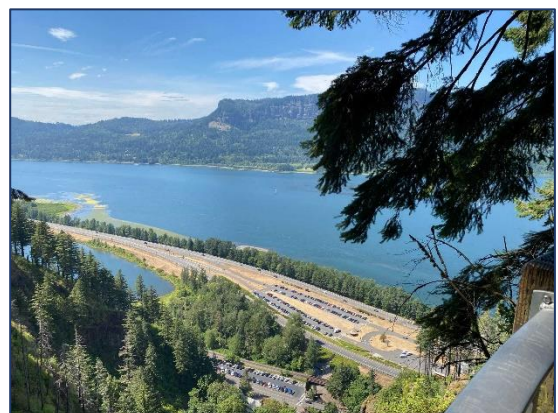
ボンネビル・ダム



遡上させるための水路



マルトノマ滝



滝口からの眺め

◎ 6 日目 ～Newberg Day～

活動の最終日に計画されていたのは、『Newberg Day』です。まずは、図書館を見学しましたが、日本の図書館と少し異なるところがあり、本の貸し出しだけでなく、ギターやヘッドホン、テレビゲームなど、本以外も借りることができました。また、館内にはプレイングルームという部屋があり、子どもたちがボードゲームを楽しむことができていました。

その後、ニューバーグ市役所やシャヘイラム文化センターなどを見学し、昼食をとりました。レストランはもちろん「Jem100」、ニューバーグ市民がこよなく愛する地元の名店です。アメリカにきてから、たくさんのジャンクフードを食べ、そろそろ白ごはんやお味噌汁が恋しくなってきた頃でもありましたが、この店のハンバーガーは一味違い、このためにニューバーグ市を再び訪れたいと思えるものでした。

お腹が満たされた後は、ニューバーグ市に工場を構える日本企業「St. Cousair（サンクゼール）」を訪問しました。社長を含めた複数の職員の方が出迎えてくださりました。事業内容は食品の製造販売等で、日本の良いものを世界各国に届けられています。サンクゼールで働くスタッフは多国籍で、工場内では職員がすれ違うたびに「こんにちは」、「Hello」、「Ola」...などいろんな言葉であいさつをかわされており、私たちもこれに倣いあいさつをしました。製造ラインを見学した後、工場内に設けられたスペースで社長から企業理念やニューバーグ市に進出した経緯などを聞かせていただきました。「Without jumping off the cliff, you will not be able to see the unknown scenery.」これは、サンクゼールで大切にされている、創業者「Kuze Ryoza」さんの言葉です。「崖から飛び降りなければ、まだ見ぬ景色を見ることはできない」今まで経験のないことにチャレンジすることは、不安も大きく後込みしてしまうこともあるが、勇気を出して一歩踏み出すことで、新しい世界と出会える、ということを示しているそうです。生徒たちは今回の交流で、この言葉の意味をまさに実体験している最中ではなかったでしょうか。この経験にとどまることなく、これからもこの言葉のとおりたくさんの挑戦をして、まだ見ぬ景色を目指してほしいと思います。



図書館の貸し出しコーナー



サンクゼールにて①



サンクゼールにて②

◎さよならパーティー ～最後の晚餐～

サンクゼールの見学が終わると学校へ帰り、身支度をしてさよならパーティーへと向かいました。会場に到着するとすでにたくさんの方で賑わっており、どこか寂しさを紛らわせるような雰囲気となっていました。テーブルには、ホストファミリーが持ち寄ったたくさんの家庭料理が並び、パーティーを彩りました。家族の一員となったファミリーと最後の食事を囲み、笑顔のたえないスタートとなりました。

後半には両国生徒のスピーチがあり、1週間の思い出などを語り感謝を伝えました。その後、日本の生徒がこの日の為に練習してきた「けん玉パフォーマンス」をしました。「うさぎとかめ」の音楽に合わせる「もしかめ」を披露し、盛大なアンコールを受け大盛り上がりとなりました。パーティーの最後は、シャヘイラムバレー中学校のダンスパフォーマンスで締めくくられ、2025年に用意されたアメリカにおける全てのプログラムが終了を迎えました。



パーティー会場



けん玉パフォーマンス

◎旅立ちの日 ～別れ～

思えば6日前、この場所でたくさんのホストファミリーに出迎えてもらいニューバーグ市での活動をスタートしました。午前3時、あたりはまだ薄暗く星が見える時間でしたが、シャヘイラムバレー中学校にはその日と同じ光景が広がっていました。今日までいろいろな出来事があり、たくさんの思い出を作りました。出発までの30分間、離れたくない気持ち、ありがとうの気持ち、もう一度会えるだろうかという気持ち、様々な思いが心をめぐり、お互いに涙が止まりませんでした。別れを惜しむ様子は、長い間つながれてきた交流のすばらしさを象徴しており、この旅で見たどの光景よりも感動的で、私たちの心の奥深くに残っています。

今年の交流を支えてくださった朝来市及びニューバーグ市のすべての方に感謝し、この度の貴重な経験を今後の人生に生かすとともに、私たちの身近なところから多くの方へ、広げていきたいと思います。



ログハウスの前で

I had a great week

和田山中学校 3 年 加 藤 心

8 月 1 日から 8 日まで、オレゴン州ニューバーグ市へ国際交流に行きました。小学生の頃から行きたかった海外に行くことができてとても嬉しかったです。1 週間の国際交流は、すべての経験が新鮮なことばかりでとても充実した期間でした。

ホストファミリーとの生活では、翻訳機を使いながら積極的に会話をしました。ホストファミリーも終始優しい表情で会話をしてくれてとても嬉しかったです。お父さんがずっと盛り上げてくれたおかげで、笑顔が絶えなかったです。その他にも、家族みんなで UNO やテレビゲームをして盛り上がりました。特に UNO では日本にはないルールでゲームを楽しみました。日本では見たことのない UNO マシンを使いながらプレイするのは普段味わえない体験でした。



ホストファミリーと



L サイズのピザ

食べ物では、ピザやハンバーガーなど大好物ばかりでした。特にピザはとても大きくて（直径 40 cm くらい）1 ピースを食べるだけでもかなりの時間がかかりました。アメリカの人達はよく食べるなど感心しました。たくさんの種類のピザを食べた中で、一番美味しかったのはハワイアン味です。フルーツが入っていたので意外にもさっぱりしていました。濃い食べ物を食べていたせいかとても美味しく感じました。

休日には、海水浴や遊園地をみんなで楽しみました。その中でも特に印象に残っているのは、ヘイスタック・ロックという場所です。綺麗な水平線が広がっている所に、突如として現れる岩（高さ約 70 m）の迫力は素晴らしい光景でした。オレゴン州では夏の平均気温が 20 度前後なので過ごしやすかったのですが、海岸では海風がとても寒かったです。



ヘイスタック・ロック

休日が終わると、シャヘイラムバレー中学校の生徒と一緒に様々な場所を訪れました。移動中のバスの中では、みんなと一緒に楽しく会話をしました。また、折り紙を使ったゲームをしたり、指スマをしたりして楽しみました。そこで、ゲームを通じて色んな人と気持ちを通わせることができるという事を改めて感じました。

更に仲良くなる出来事がありました。シーサイドという街で、みんなでここでしか買えないお土産を買ったり、ビーチバレーをしたり、高瀬さんとブライアン先生と砂風呂遊びをしたり楽しい経験をたくさんする事ができました。マルトノマ滝では、日本とはまた違った美しい景色を見る事ができました。そこでは、滝の頂上に登ろうと意気込んで先々行ってしまった友達が迷子になるというハプニングもありましたが、それも含めてたくさんの思い出ができました。



巨大な消防車

この国際交流を通じてよかった事は主に2つあります。1つ目は、英語の文章を理解する能力が上がった事です。着いた当初は、会話を理解することが難しく、予想をする事が多かったです。でも、英語で話して生活をしていくうちに、今こんな事を話してくれていると会話の内容を理解できる場面が多くなりました。2つ目は、アメリカの人達はとてもフレンドリーということです。僕はホストファミリーに会う前、とても緊張していました。ですが、緊張していた僕を会った瞬間から明るく歓迎してくれました。それだけで僕は安心する事ができました。握手やハグなど日本にない習慣は少し戸惑いましたが、みんな笑顔で受け入れてくれたので、とても嬉しかったです。

元々英語に自信がありませんでしたが、様々な人と積極的に関わり、たくさんの友達を作る事ができました。この国際交流を通じて、日本とアメリカの文化の違いや景色、英語の重要性など、今までの自分では見つけられなかった多くの事を学びました。この事をこれからの人生で生かしていきたいです。次にアメリカに行く機会があれば、またみんなと再会したいです。受け入れてくれた、Meredith（メレディス）ファミリー、引率していただいた小倉畑団長、高瀬さん、ブライアン先生、サポートしてくれた家族をはじめこの交流に携わってくれた全ての人に感謝します。貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

I want to go back to Oregon !

和田山中学校 2年 三 浦 佳 暖

(訪問前の気持ち)

私は8月1日から8月8日までアメリカのオレゴン州を訪れました。私は5月にホストファミリーとして受け入れをしていたことから、「オレゴンってどんなところなんだろう」と日々考えていました。そのため、出発日が近づくにつれ、「オレゴンに行ったら何しよう」「早くオレゴンに行きたい!」と、とてもわくわくしていました。実際にオレゴンを訪れると自然がとても綺麗で感動することばかりでした。その中で私がオレゴンに来て最初に感じたことは、全てが英語だということです。日本では全て日本語で表記されていますが、アメリカでは全て英語です。当たり前のことですが、私は日本とは全く違う光景に驚かされました。



ヘイスタック・ロック

(ホストファミリーとの楽しい思い出)

ホストファミリーと過ごした日々はとても楽しかったです。けん玉をしたり、洋画を観たりしたことが強く印象に残っています。中でも親戚一同が集まり食事をする機会があり、トランプをしたり、簡単な日本語を教えたりとコミュニケーションをとることができました。ホストファミリーはとても優しく安心して過ごせました。トランプの遊び方はたくさんあってルールが難しかったです。けん玉を一緒にしたとき、手でけん玉の皿にボールをのせたりして一緒に笑いました。休日はカニ釣りに行ったり、乗馬をしたりしました。どの体験もとても楽しかったです。カニ釣りでは信じられないほどのカニが釣れて驚きました。車での移動中もホストファミリーの Cora と折り紙などをしたりして良い経験をさせてもらいました。



カニ釣りへ



けん玉の練習



初めての乗馬

(忘れられない思い出と学び)

私はこの一週間色んな所を訪れましたが、一番心に残っているのは、海に行ったことです。砂浜が広くてとても驚きました。私はそこでみんなとビーチバレーをしました。ルールはめちゃくちゃだけど、みんなとしたバレーボールが忘れられない思い出になりました。

最後のさよならパーティーでは、Cora と浴衣を着ました。浴衣をプレゼントしたとき、とても喜んでくれたので嬉しかったです。そこでは、日本の生徒が前に出てけん玉を披露しました。すると、みんながとても喜んでくれたのでとても嬉しかったです。日本の文化をたくさんの人に紹介する事ができ、とても素晴らしい経験ができました。

ホストファミリーとして受け入れた10日間と、今回私がオレゴンに行った8日間、たった18日間でしたが、言葉が通じなくても楽しい時間を共有し、本当の友達になりました。友情に国境や言葉は関係ないのだと感じました。私にとって一生の思い出で、ものすごく良い経験となりました。

この国際交流で学んだことは、積極的にコミュニケーションをとる事、言葉より行動で示す事です。この経験で学んだことを活かしてたくさんのことに挑戦していきたいです。引率して下さった方がおっしゃった、「今回オレゴンに行って終わりじゃなくて、これからどうするのか」を大切に、生活につなげていきたいです。



ホストファミリーと



ボンネビルダムで



一緒に浴衣を着て

(将来の目標と感謝)

私は将来、英語を使う仕事に就きたいと考えているのでこの経験が将来に活かせるように頑張ります。

今回このような体験をさせて頂いたのは、朝来市のみなさんとお父さん、お母さんのおかげです。本当にありがとうございました。

Oregon 見聞録

梁瀬中学校 2年 安達 日詩

8月1日の午後5時頃、市内の中学生10人と引率者3人の計13人を乗せた飛行機が、関西国際空港からアメリカに向けて飛び立ちました。

飛行機に搭乗して座席に座ると、旅の始まりを感じ、高揚感に包まれました。機内では窓から写真を撮影したり、音楽を聴きながら微睡んだり、モニターで地図を見たり、本を読んだりして過ごしました。日本とオレゴンには16時間の時差がありますが、機内で睡眠をとったおかげか時差ボケなく過ごせました。10時間の空の旅といっても、終わってみれば短いものでした。



黄昏時の空



ホストファミリーと対面

ホストファミリーはとても親切で、英語がたどたどしい私にも積極的に話しかけてくれました。日本から持って行ったお土産も、喜んで受け取ってくれて嬉しかったです。特に、金平糖と抹茶のクッキーが好評でした。悩んで迷ったの末にやっとのことで選んだものだったので、報われたようでした。特に嬉しかったのは、食事の時に一緒に「いただきます」と「ごちそうさまでした」を言ってくれたことです。日本の文化を受け入れてくれたことに感激しました。

特に印象に残ったことは、ホストファミリーと一緒に基督教のカトリックの教会に行ったことです。神話や宗教には前から興味があったので、間近で触れられる機会があって嬉しかったです。私は、聖書をきれいに棚に並べる手伝いをしました。宗教的な音楽を生で聴いたり、宗教という異文化の中に入ったりするのは、日本ではなかなか体験できないとても刺激的なものでした。

私がアメリカに行って感じたのは、アメリカの人々の他者への寛容さです。アメリカでの生活では慣れないことがたくさんあって戸惑い、迷惑も多くかけたと思いますが、



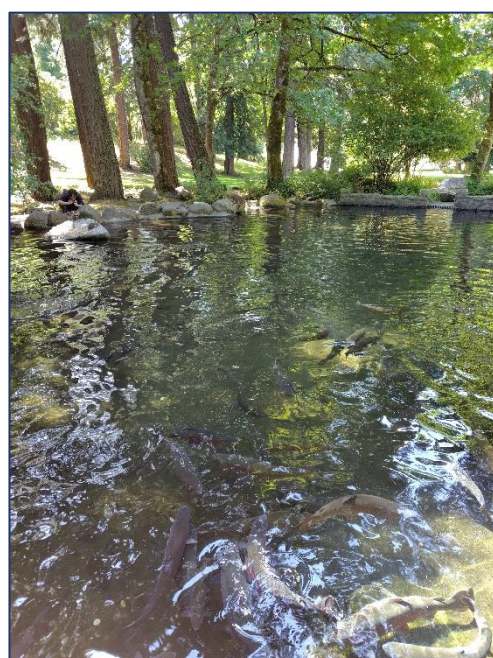
ロームと教会で

ホストファミリーはいつも私に優しく接してくれました。その経験のおかげで、私にとってオレゴン第二の故郷と呼びたい場所になりました。いつか日本で外国からいらっしゃった方を見かけることがあれば、日本を好きになってもらえるように、私を迎えてくれたホストファミリーと同じように温かく接したいです。今回のアメリカ派遣は、私にとって国際意識を高め、様々なことについて考えるきっかけをくれるとても貴重な経験になりました。次にもしアメリカに行くことがあれば、もっと英語と文化について勉強していきたいです。

このような貴重な機会を設けてくださった方、実際に引率として同行していただいた方をはじめ、この交流に関わってきたすべての方々に、この場を借りてお礼をさせていただきます。本当にありがとうございました。



Voodoo Doughnut



養魚場

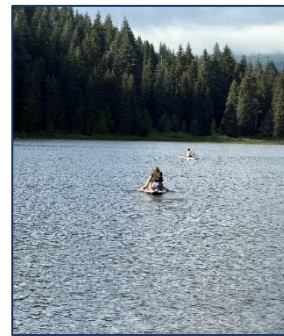
一つの夢が叶った一週間

梁瀬中学校 2年 藤井 咲 希

8月1日から8月8日までアメリカ・オレゴン州ニューバーグ市に行きました。私には海外に行ってみたいという夢がありました。初めての海外で12時間飛行機に乗るのも不安でしたが、機内では映画を見たり、寝たりして過ごしました。シャヘイラムバレー中学校に着くと、ホストファミリーがとても優しく迎えてくれたので、嬉しかったです。



フッド山



トリリアム湖

休日はホストファミリーとフッド山に登ったり、トリリアム湖でボートに乗ったり、ピクニックをしたりしました。そこで、私はオレゴンの大自然の美しさに感動しました。

平日はみんなと海やマルノトマ滝、日本企業などに行きました。シャヘイラムバレー中学校のみんなは、買い物をするときに私達が困っているとすぐ助けてくれて、とても優しくかったです。

ホストファミリーと過ごした生活は、とても楽しく、一緒に折り紙をしたり、ポップコーンを作ったり、漢字を書いたり、犬の散歩に行ったりしました。ホストファミリーに漢字を教えてあげると、とてもバランスをとるのが難しいと言っていました。漢字の意味も聞かれました。日本人は漢字が書けるのがとてもすごいと褒めてくれました。

最後のさよならパーティーでは、浴衣を着てみんなとけん玉を披露し、大盛況でした。また、各家庭が手料理を持参しており、色々な料理を食べることができました。とても美味しかったです。

この海外派遣に参加して学んだことは、自分から進んで話しかけること、ネガティブに考えるのではなくポジティブに考えること、人に優しくすること、自分の意志を持って行動することです。この経験を生かして、自分から話しかけること、ポジティブに考えることを意識していきたいと思います。

生活の中で英語が飛び交い、とても速い英語が聞き取れるか心配でしたが、アメリカの友達はとても優しく、親切に教えてくれ、私はこの派遣で英語に慣れることが出来ました。いつかもう一度アメリカに行ってホストファミリーに会うために、これからもっと英語を勉強して、たくさん話せるようになりたいと思います。



ホストファミリーと朝食

海外派遣事業を終えて

梁瀬中学校 2年 加藤 太 海

8月1日から8月8日までのアメリカ・オレゴン州ニューバーグ市への海外派遣に参加しました。この1週間はとても充実していて、正直「まだ帰りたくない」と思うくらい楽しかったです。出発前は言葉や文化の違いで不安が大きかったけれど、ホストファミリーが本当に温かく迎えてくれて、安心して過ごすことができました。



ホストファミリーと初対面



ニューバーグ市でも有名！

到着したその日に、市長からいただいた竹田城跡の扇子をホストファミリーにお土産として渡しました。すると、「竹田城跡」を知っていたようで、とても喜んでくれて驚きました。そこから会話も広がって、改めて「日本のことを紹介できるのも国際交流なんだ」と実感しました。家では日常のことを話したり、日本の生活について質問されたりして、うまく言葉が出なくても気持ちが伝わるのを感じました。

初めての海外で最初はあまり実感がなかったけれど、街並みや自然、そしてみんなが英語を話している環境にすることで「本当にアメリカに来たんだ」と強く感じました。

一番驚いたのは食べ物です。最初の朝食から量が多くて食べきれないほどで、ハンバーガーやピザもとても大きかったです。味付けが濃くて慣れるまでは大変でした。お菓子はとても甘かったり、日本ではあまり食べないような味があったりして、正直あまり口には合いませんでした。でも「違いを知る」という意味では面白い体験でした。また、日本との違いを強く感じたのは道路です。車の走行車線が日本と逆だったり、自分の走行速度が出る電光掲示板があったりして、とても新鮮でした。普段は気にしていなかったことも、違う国に行くと「日本ってこうなんだ」と改めて気づくことができました。



大きすぎるピザ

一番印象に残っているのはホストファミリーと過ごした休日です。ジェットスキーはスピードを出すと小さな波でも大きく跳ねて少し怖かったけれど、スリルがあってすごく楽しかったです。その後は浮き輪をジェットスキーで引っ張ってもらったり、高い場所からロープを使って川に飛び込んだりしました。怖さよりも「やってみよう」という気持ちが勝って、挑戦できたことが自分の自信にもつながりました。



ジェットスキーを体験

帰国後も交流は続いています。今は海外派遣と一緒にいった日本の子たちや、ホストファミリーとして受け入れてくれたアメリカの子たちと SNS のグループでつながっていて、メッセージを交換しています。基本は英語でやり取りしていて、翻訳アプリを使いながらですが、自分の言葉で伝えようとするのはとても良い練習になっています。こうやって帰国してからもつながりがあるのは本当に嬉しいし、今回の派遣がただの旅行じゃなくて「これから先にも続く経験」になったと感じています。

この海外派遣で僕は、文化や習慣の違いを知るだけでなく、自分の当たり前が世界の当たり前ではないことを学びました。そして、言葉が通じなくても交流できること、挑戦することで自分を成長させられることを実感しました。これからも今回の経験を大事にして、学校生活や将来の進路でも新しいことに挑戦していきたいです。



最後の集合写真

アメリカ海外派遣に参加して

梁瀬中学校 2年 藤原 結香



ボンネビルのガーデンで

行きました。そのお店の天井に何かたくさん物がぶら下がっていて、不思議そうに見ていると、「あれは、すべて泡だて器なんだ!」と教えてくれました。料理が来て、いざ食べようとする、緊張と寒さでご飯がうまく喉を通りませんでした。その時エリースが、「私も日本に行った時、緊張で食べられなかったから、無理せず残しても大丈夫だよ」と言ってくれました。

沢山の貴重な体験をした中で、私が一番楽しかったのは、ビーチバレーと養魚場の見学です。ビーチバレーをするのは人生で初めてでした。その初めてをこのメンバーで出来た事がとても嬉しかったです。そして、養魚場の見学では、日本で見た事のない魚や、大きいチョウザメを見て、とてもおもしろい発見ができました。

お別れの際には、何度も何度もホストファミリーとハグをして、バスに乗るまでずっとお互いの手をぎゅっと繋いでいました。すごくさみしくて帰りたくない気持ちでいっぱいでした。いつかまた会えるようにこれからも頑張っていこうと思います。送り出してくれた両親と同行いただいた、小倉畑団長、高瀬さん、ブライアン先生、そしてこの交流に関わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。本当に色々な経験をありがとうございました。



シーサイドの砂浜で



さよならパーティー



ボンネビルの魚

「Challenge my self」

梁瀬中学校 2年 吉 本 陽

僕は8月1日から8日の1週間、アメリカ・オレゴンでかけがえのない日々を過ごしました。初日は長時間のフライトで眠れず、さらに飛行機酔いにも苦しみ、体は限界に近いほど疲れていました。けれど、ニューバーグ市に着いた瞬間、イーガン家が満面の笑顔で迎えてくれて、その温かさに触れた途端、疲れも眠気も一気に吹き飛びました。緊張もなく、初日から安心してアメリカでの生活を始めることができました。

英語力に自信がなかった僕ですが、派遣団の仲間たちと過ごす時間の中で、不安は次第に喜びへと変わっていきました。特に、バスでの移動やパーティーの後に交わした会話やゲームは、笑顔であふれる最高のひとときでした。その瞬間、「英語を必死に勉強してきて本当に良かった」と心から思えました。

ホストファミリーとの生活は、夢のように楽しく、人生の宝物となる経験でした。観光地に行ったことも思い出ですが、何気ない日常の会話や、家族や友人との触れ合いが何よりも新鮮で幸せでした。中でも、日本で受け入れたザンダーと再会した時間は特別で、帰国した今でもその記憶は鮮明に心に残り、毎日のように思い出しています。

また、アメリカで強く印象に残ったのは、人々の感情表現の豊かさです。地元の野球の試合を観戦したとき、調子の悪い選手には容赦なくブーイングし、素晴らしいプレーには全員が立ち上がって歓声を上げる姿を目の当たりにしました。日本人がなかなか表に出せない感情を、アメリカの人々は全力で示します。その姿から、「良いことは良い、悪いことは悪い」とはっきり言える強さこそが、アメリカを世界経済の先頭に立たせているのだと感じました。

この旅を通して、僕は「挑戦する勇気の大切さ」を学びました。アメリカの人々の積極性に刺激を受けただけでなく、自分自身も勇気を出して、まだ十分に理解できない英語の会話に飛び込みました。その挑戦の一步一步が、楽しい思い出や新しい気づきへとつながったのです。これからは、この経験を糧に、梁瀬中学校、そしてバスケットボール部をもっと盛り上げていきたいと思います。僕の挑戦は、まだ始まったばかりです。



ホストファミリーと



迫力のボンネビルダム

ここが私のアナザースカイ、Oregon です！

梁瀬中学校 2年 筒井 紫千花

飛行機を降りた瞬間、ホットドッグやマフィンのような、日本とは全く違う匂いがした。

「これがアメリカの香りなんだ。」とお腹の底からワクワクが込み上げてきた。朝来市に来てくれたシャヘイラムのみんなとの再会。5月以来ずっとSNSで連絡を取り合っていたけれど、やっと会えることが夢のようだった。



Octave のいとこの豪邸



Maia とサキと一緒に夕飯



ポートランドでショッピング

私は7日間の滞在期間中に目標を5つ立てた。

①常にリビングで家族と一緒にいる

お母さんのErin、同じ年のOctave、6年生の妹Bijouとの会話は毎日23時まで続いた。子どもが部屋に戻った後も、私はお母さんとキッチンで女子会を続けた。

②日本人で固まりすぎない

気が楽なのでついつい日本人同士になりがちだが、意識してそうならないようにした。

③笑顔でいる

楽しすぎて、笑顔が止まらなかった。

④間違えても恥ずかしがらずに話し続ける

語順や単語を間違えて話してしまうのは当たり前と割り切って、臆することなく話して正しい英語を教えてもらった。

⑤知らない人に話しかけてみる

「写真撮りましょうか？」や「日本に来たことはありますか？」など、全く知らない人に話しかけてみた。容赦ないトークの速さにも「Sorry…」と伝えてゆっくり話してもらった。

あっという間の7日間だったが、まるで何年も一緒に過ごしたかのような深い絆が生まれた。こんなに素晴らしい体験をさせてもらえて、私は本当にしあわせ者だと朝来市に感謝！



My wonderful trip to Oregon

朝来中学校 3年 伊藤 みなみ

8月1日。ついにこの日がやってきました。長い間、私が夢見ていたアメリカへの旅が始まります。人生で初めての体験ばかりで、とても楽しく、充実した一週間となりました。

毎日が忙しいほどに楽しく素晴らしい日々でした。特に心に残っているのは、ホストファミリーと過ごした休日の二日間です。ホストファミリーは、私を温かく受け入れてくれました。とても居心地が良く、幸せな時間を過ごすことができました。

ホストファミリーとの一日目、私のリクエストでオレゴンの動物園に連れて行ってもらいました。そこで出会った迫力のある象の姿がとても印象に残っています。私が想像していた以上にダイナミックなスペースで水遊びをしている象がとても可愛らしかったです。おやつには、“elephant ear”というお菓子を食べました。サクサクした食感で、見た目もユニークでとてもおいしかったです。ホームステイ先の子と「ちょっと甘いね」と笑いながら一緒に食べたのもいい思い出です。

↓甘～い elephant ear



↓Mt.Hood でのハイキング



二日目も私のリクエストに応じてもらい、フッド山周辺のハイキングに連れて行ってもらいました。周りには素敵な花や針葉樹林、迫力ある滝、そして数えきれないほどのチョウが飛び交っていました。ホストファミリーも、「How special!!」と驚くほどの光景だったそうです。目の前に広がる大自然に心の底から感動しました。そこからさらに登っていくと、リフトがありました。私の家族も、ホストファミリーもスキーをするので、趣味の話で盛り上がりしました。昨日より英語が話せたかな？と少し自信がもてた瞬間でした。帰り道、有名な” Timber line Lodge”にも連れて行ってもらい、木彫りのアートをたくさん見ることができました。私が経験したいことを全て叶えてくださった素敵なホストファミリーに感謝しています。

この旅を通して、積極的にコミュニケーションをとることが大切だと感じました。はじめは、自分の話す英語に不安があったけれど、会話をする中で自分の思いが相手に伝わっているのを感じ、嬉しく思いました。これからも、自分から積極的にコミュニケーションをとり、新しい出会いや発見を大切にしていきたいです。そして、この旅で繋がった人たちとの絆も大切にしていきたいです。

Thank you for welcoming me warmly!

この旅に協力して下さったすべての方々に、感謝します。ありがとうございました。

↓楽しかった日々



Into the unknown

近畿大学付附属豊岡中学校 3年 今村 彩 葉

ホストファミリーとの出会い



ホームステイ中は新しい発見と驚きの連続でした。アメリカに行くまでエルシーとはメールで何度もやり取りはしていたけど、初対面となると、とても緊張しました。伝えたいことはたくさんあるのになかなか英語がでてきません。初日は思いを伝えるのにとても苦労しました。ですが、優しく私を受け入れてくれて、色々な質問をしてくれたホストファミリーのおかげで不安でいっぱいだったホームステイ生活も、日を重ねるごとに少しずつ緊張がほぐれ、英語を話すことや異文化に触れることを心から楽しむようになりました。英語を使うことの難しさを感じながらも、「伝えたい」という気持ちがあれば必ず相手に届くという自信も持てるようになりました。

Dillow ファミリーと過ごす初日は、オレゴン最大のシルバーフォールズ州立公園へ連れて行ってもらいました。滝のしぶきをあびながら歩くのは気持ち良かったし、滝の音や森の深い緑がとても綺麗でした。シャヘイラムバレー中学校のみんなと落差1位のマルトノマ滝や大迫力のボンネビルダムにも行って、日本ではそんな風景を見ることはあまりないなと思い、たくさん写真を撮りました。ここでは新しい発見がありました。それは、アメリカ人は知らない人同士でも自然に声をかけあい、すぐに会話が始まることです。美しい滝を目の前にして一緒に感動を分かち合ったり、「Hi!」や「How are you?」といったやり取りが交わされたり、人と人との距離がとても近いと感じました。最初は緊張でガチガチになっていましたが、だんだん英語を使う勇気が出てきました。日本ではあまりない文化でとても新鮮な体験でした。

シルバーフォールズ州立公園にて



アメリカの食事



驚いたことといえば食べ物の量の多さです。ハンバーガーは日本で見慣れているよりもずっと大きく、レストランで頼んだパスタには、頼んでいないチキンやバケットまでついてきて、サイズだけでなく味もボリュームがありアメリカらしさを感じました。また、アメリカの食事の中で特に印象に残ったのはお父さんが焼いてくれたサーモンです。いろんな調味料で漬け込んであってとても味わい深くおいしかったです。また、エルシーと一緒にパンケーキやタコスを作ったのも思い出です。

ホストファミリーに日本の文化を紹介するために習字を一緒に体験しました。みんな真剣に筆をもって、自分の好きな言葉を書いてくれました。とても楽しんでもらえたようで私も嬉しくなりました！

家族のみんなで



今回のホームステイで得た自信をこれからの生活に活かしていきたいです。この交流に関わったすべての人に感謝します。貴重な体験をありがとうございました。

Thank you very much!

さよならパーティー



朝来市とシャヘイラムバレー中学校の2025年交流学校

和田山中学校 ALT ブレンナン ブライアン

2回目となる今年も、このプログラムの引率者として参加できたことを、とてもありがたいと思います。去年より派遣団が5人増え、合計10人を僕の出身のオレゴン州に連れて行って、素晴らしい旅をすることができました。

去年と同じく、出発する前に「子供たちは英語が上手に喋れるようになるかな」と心配



引率者のシーサイドランチ

しましたが、ホストファミリーとの会話の様子を見たときに、不安が全部消えました。今年の生徒たちも立派な子ばかりで、言語の壁を壊して、アメリカの生活が楽しめたようです。皆が困った時に、自信をもって自分の力でトラブルを解決する事ができるようになったことを、誇りに思います。初めて日本に来た時の僕を思い出すと、そんな事は全くできませんでした。最初の半年は、敬語が聞き取れなくて、言いたいことが伝えられませんでした。だから、今年の派遣団の生徒がこのまま英語と外国の勉強

を続けると、きっとぺらぺらになると信じています。皆さん、諦めないでください。

この旅でたくさんいい思い出がありましたが、特にマルトノマ滝の登山が思い出されます。去年の交流では、マルトノマ滝であまり時間がありませんでしたが、今年は1時間以上あり、頑張れば滝の頂上までぎりぎり登れそうでした。なので、僕と一部の生徒はトップを目指し、無事に展望台に着く事ができました！僕は、何回もマルトノマ滝に行った事があるけれど、頂上に登ったのは初めてで、皆と一緒に新しい経験ができてすごく感動しました。

この2年間で、プログラムの復活を手伝う一員になれたのは人生の忘れられない経験でした。未来の交流を楽しみにしています。



マルトノマ滝の上

Coming home Oregon ♪

学校教育課 主事 高 瀬 一 弥

昨年、5年ぶりに再開を果たしたこのプログラムを担当し、今年も引き続きオレゴンへ行く機会をいただきました。5月に来日したシャヘイラムバレー中学校の訪問団を関西国際空港で見送ったときには、「See you Summer!」と約束し、今度はオレゴンの地で再会できることを楽しみにしていました。長時間の移動の末にシャヘイラムバレー中学校で歓迎を受けた際には、またここに帰ってくることができたと心から嬉しく思うと同時に、素晴らしい交流にしたいという思いを一層強く持ちました。

私は昨年に続いて Andy 校長のファミリーにお世話になりました。到着した日は夜だったこともあり、家族と会えたのは翌日の朝でした。久しぶりの再会で少し恥ずかしさもありましたが、1年の月日は一瞬で埋まり、子どもたちと一緒にゲームをしたり、広場でロケットを飛ばしたり、太平洋沿いにある Tillamook という町に行きチーズ工場や灯台を訪れたりしました。オレゴン州は行く先々で違った色を見せ、何度訪れても新しい学びを与えてくれると感じました。

6日目の～Newberg Day～には、ダウンタウンや住宅地を歩き、市役所の職員の方からその場所の歴史を教わりました。建物や公園には、それぞれが紡いできたストーリーがあり、市民の方がとても愛着をもって毎日を過ごされていると感じました。町で出会う方たちは、私たちの交流をよくご存じで、まるで古くからの友人であったかのように、気安く話しかけてくださりました。私自身もこの交流が今後も長く続き、ひとりの市民としてニューバーグ市の方を見かけることがあれば、親しみを持って接したいです。



コーンの先まで楽しめる



Coming home (Oregon)

↑音楽アプリで検索 ♪

プログラム担当の Donna 先生は、さよならパーティーの最後で、シャヘイラムバレー中学校が大切にする、あるテーマについて触れられました。私は5月に、彼らと広島平和記念資料館を訪れ、世界の大戦で起きたあの出来事を共に学びました。私たちが生まれる前に起きたこととはいえ、戦後80年を迎えたこの年に、互いの国を行き来して互いの文化に触れ、同じ時間を共にして笑い合えたことは、私が想像していた以上に価値のあるものだと感じました。

私たちが実際に見たもの、聞いたこと、感じた思いを、この経験を支えてくださった方々へ返すものとして、多くの方に広げていきたいと思います。



オレゴン州旗



オレゴン州の位置



友好之庭の前で